

平成 27 年度 第 1 回 可児市都市計画審議会

平成 27 年 5 月 18 日（月） 午後 1 時 30 分

可児市役所 5 階第 1 委員会室

議事

議第1号 都市計画道路可児駅前線（可児駅前広場）の計画変更
について . . . 1～4頁

当該路線変更前後対照表(可児市決定)

	種別	名称		位置			区域	構造			
		番号	路線名	起点	終点	主な経過地	延長	構造形式	車線の数	幅員	地表式の区間における鉄道等との交差の構造
変更前	幹線街路	3・4・9	可児駅前線	可児市 下恵土 字町田	可児市 広見 字高田	可児市 広見 字姫住	約 690m	地表式		20m	幹線街路と平面交差3ヶ所
		なお、可児市下恵土字前田地内に約6,900㎡の可児駅前広場を設ける									
変更後	幹線街路	3・4・9	可児駅前線	可児市 下恵土 字町田	可児市 広見 字高田	可児市 広見 字姫住	約 690m	地表式	2車線	20m	幹線街路と平面交差3ヶ所
		なお、可児市下恵土字前田地内に約6,300㎡の可児駅前広場を設ける									

理 由 書

(可児都市計画道路 3・4・9号 可児駅前線)

可児市都市計画マスタープランでは、JR可児駅・名鉄新可児駅が市の玄関口であることから、バスなどの他交通手段への乗り換え結節点としての機能強化を図るため、駅前広場を配置すること、また、鉄道で分断された東西の地域を有機的に結び、駅利用者や来訪者の利便性を図るため、東西自由通路の整備を推進することを位置づけている。

一方で、可児駅前広場は、平成10年に3・4・9号可児駅前線の付帯施設として面積約6,900㎡が都市計画決定されたが、計画決定から約16年が経過し、計画決定当時から社会経済状況が変化しているため、計画が現状に馴染まなくなっている。

現状では、人口の伸びが見込まれないとともに、最新のパーソントリップ調査の結果から駅前広場利用者の端末交通手段別割合をみると、自家用車、徒歩等の利用に比べ、バス、タクシーの利用割合が少なくなっており、タクシー駐車場などの施設配置を見直す必要がある。

また、東西自由通路及びJR可児駅舎についても駅利用者の将来予測や超高齢社会に対応した施設とするため、施設計画の見直しを進めている。

以上のことから、現状を踏まえた駅前広場利用者を予測するとともに、東西自由通路及びJR可児駅舎の変更計画を踏まえ、駅前広場の形状及び面積を変更し、駅利用者や来訪者の利便性向上を図るものである。

なお、駅前広場の区域の変更と併せ、3・4・9号可児駅前線の車線数を新たに定めることとする。

都市計画決定手続きスケジュール（市決定）

